

静岡県漁業協同組合連合会

990 静岡市追手町 9-18
14.4.19 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 第67回大漁祈願祭を挙行 大漁満足と航海の安全を祈願

本会及び県信漁連では去る、4月13日三嶋大社において水産関係団体の協賛により第67回大漁祈願祭を挙行致しました。

同祈願祭は、我が国最初の漁業法が誕生した、明治34年4月13日を記念して昭和8年に定められ、戦時中2回を除いて毎年吉例行事として執り行われてきました。

当日は県をはじめ、本会漁業関係団体約60名が参列するとともに各漁協から持ち寄せられた、タイ、ブリ、サクラエビなど海の幸が供えられ、禰宜や巫女による「人長の舞」、「五月女の舞」が奉納された後、本会、県信漁連、県、地区運営委員会及び水産関係団体の代表者が順次玉串を奉奠し、本年の大漁満足と航海の安全を祈願しました。

2. 第33期入学式を挙行 たくましい海の男を目指して21名入学 - 県立漁業高等学園 -

県立漁業高等学園(戸塚宏一園長)では、去る4月10日平成14年度(33期)の入学式を挙行しました。

本年度は、航海科11名機関科10名の合計21が入学し、式典では戸塚園長の式辞、青山県水産総室長の挨拶に続いて、来賓を代表して八木県議会議員、原同学園後援会長(本会会長)から夫々祝辞が述べられました。

その後、新入生を代表して航海科鈴木靖人君が「友達と助け合い、県のよき漁業後継者となるよう努力します」と誓いの言葉を述べ閉会となりました。

なお、生徒は全員寮に入り、今後1年間にわたり航海方法、法規、機関概要、及び漁業に関する基礎知識について学ぶとともに、南方海域へ1ヶ月間にわたる航海自習などに取り組み、来年の5級海技士国家試験を目指すこととなります。

本年度入学者の出身地は次のとおり。 県内18名：浜松市、榛原郡各3名、焼津市、田方郡各2名、沼津市、富士宮市、富士市、藤枝市、島田市、磐田市、長泉町、新居町各1名、 県外3名：東京都、神奈川県、広島県、各1名

3. 平成13年本県トラフグ水揚げを発表 - 県ふぐ連 -

県ふぐ漁組合連合会(星川壽美雄会長)では、平成13年漁期(10~2月)が終了したことに伴い、このほどトラフグの水揚げを取りまとめました。

それによると、13年漁期トラフグ延縄水揚げ量は61トンで、過去最高を記録した平成12年漁期100トンを下回ったものの、近年では平成5年の67トンに次ぐ水揚量となりました。

水揚げ金額は、376百万円、前年(506百万)と約60%となりましたが、単価的には6,137円、前年(5,060円)と水揚げ数量の減少等から、前年を1,100円程度上回った結果となりました。

漁獲物は、10月の時点で全長37センチにモードを持つ1歳魚が漁獲物の大半を占めましたが、平成12年漁期の主対象となった平成11年級群も混獲されたことが特徴でした。

4. 参議院農林水産委員由比港、焼津港を視察

水産基本法の制定に伴い、関連法案の審議を進めている中で、去る4月11日参議院農林水産委員会(委員長常田亨詳)の一行14名(本県選出議員竹山裕(自民)、 榛葉賀津也(民主)両氏を含む)が由比漁協、焼津漁協、小川漁協を訪れました。

由比港においては、由比町長や漁業関係者が出席する中、原本会会長(由比港漁協長)による本県特産の桜えびの漁業状況や資源管理の考え方などの説明がなされた後、懇談されました。

また、新焼津港においては新魚市場、マグロなどの入っている超低温冷蔵庫や深層水取水施設のほか小川漁港、水産加工団地を視察し、さらに戸本焼津市長、西川焼津漁協長等が出席しカツオ、マグロの生産と流通、厳しい漁業経営の実情などの説明がなされた後、同様に懇談されました。

5. 遊漁船業が届出制から登録制へ

水産庁は、漁業と遊漁で漁場利用を巡るトラブルが発生し資源管理上無視できない状況となっていることを踏まえ、漁場の安定的な利用や遊漁船利用者の安全を確保するため改正案をまとめました。

内容的には、遊漁船の届出制から登録制(5年)に改正、登録後に同法に違反した場合には業務停止や登録の取消し、事業の実施方法を定めた業務規程の作成と都道府県知事への届出、遊漁船利用者の安全を確保するため遊漁船業務主任者の選定、利用者に生じた損害賠償を行う場合に備えた措置(保険加入)、案内する漁場における採捕規定の周知、営業所と遊漁船に登録番号等を記載した一定の標識の提示等が盛り込まれています。

同庁では、今国会での成立を目指しており平成15年4月1日施行を予定しています。

6. 県TAC(漁獲可能量) 2月末漁獲実績を発表

県では、このほど県TAC対象5魚種の2月末現在の漁獲実績を発表しました。

それによると、マイワシがTAC数量10,000トンに対し、7トンで消化率0.1%、マサバ及びゴマサバは同8,000トンに対し35トンで消化率0.4%、またTAC数量が若干量の魚種では、サンマ60トン、マアジ222トン、スルメイカ24トンとなりました。

7. 本会人事異動 第2次内示を発令

本会では、第2次人事異動(内示)を次の通り発令しました。

焼津事業所、浜名出張所駐在 中西 浩二(沼津事業所)5月1日発令

《訂正》本紙989号掲載のホームページアドレス <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/> を<http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren>と掲載致しました。お詫びして訂正します。